

会 告

| | |
|---|-----|
| 農業土木学会第 38 回通常総会開催について | 93 |
| 平成 17 年度農業土木学会賞の決定について | 93 |
| 平成 17 年度「研究グループ」の助成金募集について(再) | 94 |
| 農業土木学会論文集印刷用(完全版下)原稿作成について..... | 95 |
| 農業土木学会論文集投稿料の改定について(再々) | 95 |
| 投稿原稿の閲読状況が確認できます! | 95 |
| 平成 17 年度農業土木学会大会講演会参加費対応について(注意事項) | 96 |
| 平成 17 年度農業土木学会大会講演会予約申込書 | 96 |
| 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について..... | 96 |
| 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め..... | 97 |
| 農業土木学会誌への投稿お待ちしております! 小特集以外の投稿も歓迎します..... | 98 |
| 学会誌掲載待ち自主投稿原稿の掲載について..... | 99 |
| 新コーナー:「私の勧める本」の原稿を募集しています! | 99 |
| あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 18 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集 | 99 |
| 第 62 回農業土木学会京都支部研究発表会の開催について(第 1 報)  | 100 |
| 国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について  | 100 |
| 防災に関する国際シンポジウムの開催について | 101 |
| 学会記事 | 102 |

農業土木学会(本部)行事の平成 17 年度計画

農業土木学会(本部)17 年度行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中()を表しています。

| 開催日 | 主催 | 行事名 | テーマ | 開催場所 | 掲載号 |
|------------------------|-----------------|---|-----|------|-------------|
| 平成 18 年 8 月 23~26 日 | 平成 17 年度大会運営委員会 | 平成 17 年度大会講演会  | | 岐阜大学 | 74 巻 1 号 |

第 73 巻 6 号予定

展望: 環境保全が地域をつくる: 河野 俊正

小特集: 東海地域における環境保全と地域貢献の取り組み

- 愛・地球博と愛知県における環境配慮への取り組み: 栗本 浩他
- 国営事業における環境との調和への配慮に向けた取り組み 米山 元紹他
- 岐阜県における環境保全と地域貢献に向けた取り組み 棚橋 康人
- 三重県における環境保全と地域貢献に向けた取り組み 山本 周平
- 都市化地域における土地改良施設の地域貢献 中森 一郎
- 周辺環境に配慮した開水路の改築について 小西 邦寿他
- 農山村景観の再生をめざした地域貢献 松本 康夫

技術リポート

- 北海道支部: GPS/IMU 搭載航空レーザ計測の構造及びその活用性: 小林 伸行
- 東北支部: 伊豆沼・内沼周辺における小規模水田魚道の遡上実験について: 三塚 牧夫
- 関東支部: 地すべり指定地内における既存導水トンネルのバイパス計画: 須藤 修司
- 中国四国支部: 国営かんがい排水事業「東伯」地区における地域住民への PR 活動について: 山口和彦
- 九州支部: 環境に配慮した幹線排水路の構造決定について: 柳田 豊

講座: バイオマス利活用(その 1): バイオマス利活用のための地域診断: 柚山 義人

小講座: 環境保全と NPO: 奥 直

私のビジョン: スローライフとコモンズ - 新しい農村と農業の時代へ - : 平松 研

論文をかたる: サトウキビの生育と土壌、気象要因の難解な関係: 吉永 安俊

農業土木学会関連行事予定

| | | | | | | |
|--------------------------|------------|----------------------|--|---|----------|-------|
| 平成 17 年 5～6 月 | 農業農村情報研究部会 | 勉強会 | | | | |
| 平成 17 年 8 月 24 日 | 応用水理研究部会 | 企画セッション | | 農業土木分野における応用水理学研究の課題 | 岐阜大学 | |
| 平成 17 年 8 月 24 日 | 水文・水環境研究部会 | 企画セッション | | メコンデルタの水文解析と氾濫域の環境保全農業 | 岐阜大学 | |
| 平成 17 年 8 月 25 日 | 水土文化研究部会 | 企画セッション | | 水土文化資源の多面的利活用 水土の記憶を活かす | 岐阜大学 | |
| 平成 17 年 8 月 25 日 | 材料施工研究部会 | 企画セッション | | 地震による農業水利施設の被害、復旧工法、対策工法 | 岐阜大学 | |
| 平成 17 年 8 月 25 日 | 農村計画研究部会 | 企画セッション | | 中山間地域直接支払いの評価と展望 | 岐阜大学 | |
| 平成 17 年 8 月 25 日 | 資源循環研究部会 | 企画セッション | | 農業土木における資源循環への貢献 バイオマス資源利活用における課題と対応 エネルギー変換 | 岐阜大学 | |
| 平成 17 年 8 月 25 日 | 畑地整備研究部会 | 企画セッション | | 高品質化と畑地灌漑 | 岐阜大学 | |
| 平成 17 年 8 月 25 日 | 農業農村情報研究部会 | 企画セッション | | 農業土木における農業農村情報 | 岐阜大学 | |
| 平成 17 年 8 月 25 日 | 農村生態工学研究部会 | 企画セッション | | 農村生態工学の展望と課題 | 岐阜大学 | |
| 平成 17 年 9 月 1 日 | 畑地整備研究部会 | 第 44 回畑地灌漑研究集会 | | | 別府市 | |
| 平成 17 年 9 月 7, 8 日 | 農村計画研究部会 | 平成 17 年度第 27 回現地研修集会 |  | 豊かな農村資源を未来へ 地域が取り組むさまざまな 保全のかたち | 福井市 | 73巻2号 |
| 平成 17 年 10 月 27, 28 日 | 京都支部 | 第 62 回研究発表会 |  | | 金沢市 | 73巻5号 |
| 平成 17 年 10 月 | 水文・水環境研究部会 | 第 18 回シンポジウム | | 農林地および広域の水文・水環境 | 茨城大学 農学部 | |
| 平成 17 年 11 月 10～11 日 | 農地保全研究部会 | 農地保全研究集会及び現地見学会 | | 未定 | 鹿児島市 | |
| 平成 17 年 11 月 25 日 | 土壌物理研究部会 | 第 44 回研究集会 | | 環境修復と土壌物理 | 東京大学 | |
| 平成 17 年 11 月 | 農業水利研究部会 | 研修会 | | | | |
| 平成 17 年 11 月 中旬 | 農村道路研究部会 | 平成 17 年度研究発表会及び現地見学会 | | | | |
| 平成 17 年 | 材料施工研究部会 | 第 43 回シンポジウム | | | | |
| 平成 18 年 3 月 | 水土文化研究部会 | 第 3 回水土文化研究部会 | | 先人達の「水土の知」 | 農業工学研究所 | |

学会誌 73・74 巻の小特集・特別企画のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ | 要 旨 締 切 (A4判 1 500 字以内) | 原 稿 締 切 (刷り上げ 4 ページ厳守) |
|--|---------------------------------|--------------------------------|
| 73 巻 7 号 現場における農業土木技術 (仮) | 公募終了 | 平成 17 年 2 月 15 日 |
| 8 号 農業土木の防災技術 (仮) | " | 平成 17 年 3 月 15 日 |
| 9 号 農村における生物多様性, 外来種(移入種)を巡る現状と課題(仮) | " | 平成 17 年 4 月 15 日 |
| 10 号 施設管理の 20 年の歴史を振り返る (仮) | 公募なし | |
| 11 号 農業水利施設のストックマネジメント (仮) | 平成 17 年 4 月 25 日 | 平成 17 年 6 月 15 日 |
| 12 号 | 公募なし | |
| 74 巻 1 号 おらが町の地域再生・町づくり (仮) | 平成 17 年 6 月 24 日 | 平成 17 年 8 月 15 日 |
| 2 号 | 公募なし | |
| 3 号 地域資源管理と農業土木政策の展開 (仮) | 平成 17 年 8 月 25 日 | 平成 17 年 10 月 15 日 |
| 4 号 農村景観法 (仮) | 平成 17 年 9 月 22 日 | 平成 17 年 11 月 15 日 |
| 5 号 農業土木の国際化のあゆみ (仮) | 平成 17 年 10 月 25 日 | 平成 17 年 12 月 15 日 |
| 6 号 大会関連 関東支部 (仮) | 公募なし | |
| 7 号 湿地・湿原関連 | 平成 17 年 12 月 22 日 | 平成 18 年 2 月 15 日 |
| 8 号 | 公募なし | |

上記のテーマに沿った報文の投稿をお待ちしております。

なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。会告 98 ページに掲載されている特集の趣旨をお読みいただいた後、要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

送付先 〒105 0004

東京都港区新橋 5 34 4

(社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail henshu@jsidre.or.jp

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、73 巻 1 号および農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

農業土木学会学会第 38 回通常総会開催について

社団法人農業土木学会定款第 27 条により、第 38 回通常総会を下記により開催いたしますので、代議員にはできるだけご出席くださるようご案内申し上げます。なお、定款第 27 条 4 項により、正会員は総会に出席して、議長の了解を得て意見を述べることができます。

議案の詳細につきましては、本号巻末に掲載しています。

記

日 時 平成 17 年 5 月 17 日 15 : 00 ~ 16 : 00

場 所 農業土木会館 6 階大会議室

議 案 1. 平成 16 年度事業報告

2. 平成 16 年度収支決算

3. 平成 17 年度事業計画

4. 平成 17 年度収支予算

5. 名誉会員の推挙

平成 17 年度農業土木学会賞の決定について

平成 17 年度の農業土木学会賞は、平成 17 年 4 月 22 日 (金) の第 192 回理事会において、下記のとおり決定いたしました。授賞式は、来る 8 月 23 日 (火)、岐阜大学小講堂で開催される平成 17 年度大会講演会第一日目に行われます。

| | | | |
|-------|---|----------------------------|------------------------|
| 学術賞 | 地すべり解析に必要な土質強度に関する一連の研究 | 宜保清一 | 琉球大学農学部 教授 |
| 研究奨励賞 | 砂質土壌および撥水性土壌におけるフィンガー流に関する一連の研究 | 川本 健 | 埼玉大学工学部 助手 |
| 論文奨励賞 | ファジイ推論によるメダカの実環境応答モデルの開発 | 平松和昭 | 九州大学大学院農学研究院 助教授 他 |
| 論文奨励賞 | CVM による農業・農村環境保全政策の環境便益評価 | 合崎英男 | 農業工学研究所農村計画部 他 |
| 論文奨励賞 | リスクマネジメントとしての生態系保全 | 森 淳 | 農業工学研究所地域資源部 主任研究官 |
| 技術報告賞 | 地元博物同好会の参加を得た生態系に配慮したため池の改修 | 吉田和輝 | 愛媛県西条地方局 他 |
| 技術報告賞 | 手づくりの地域活性化プラン策定の実践活動から | 田村孝浩 | 宮城県農業短期大学 講師 他 |
| 著作賞 | 田んぼまわりの生きもの 田んぼまわりの生物多様性の調査, 認知, 評価に関する貢献 | メダカ里親の会 | |
| 著作賞 | 信州発 棚田考 | 木村和弘 | 信州大学農学部 教授 |
| 著作賞 | 岩洞ダムの生い立ち | 中島哲生 | 名誉会員, 元(社)農業土木事業協会専務理事 |
| 環境賞 | 農村地域で自然環境保全・再生活動による地域づくりに貢献 | 水土里ネット立梅用水 | |
| メディア賞 | 児島湾周辺農業水利事業の紹介および農業基盤整備の重要性と啓蒙活動 | 中国四国農政局 山陽東部土地改良建設事務所 | |
| 功労賞 | 長年にわたる水利施設整備, 泥炭地改良等に対する技術的貢献及び機械の開発, 施工法の提案等に対する貢献 | 黒木 健 | 開発工建(株)取締役会長 |
| 功労賞 | 実証的水工研究による大規模農業水利施設の計画設計技術開発および技術者再教育への貢献 | 石野捷治 | 前日本技研(株) |
| 功労賞 | 埼玉県における農業水利調整と計画・実施に貢献 | 仁科重磨 | 塩川設計測量(株) 顧問 |
| 功労賞 | 長大送水システム管理経験に基づく長年にわたる日中農業土木技術協力への貢献 | 日高修吾 | 前(財)日本農業土木総合研究所 専門研究員 |
| 功労賞 | 水と水利施設を地域の宝として守り, 活用した地域の若手技術者の育成への貢献 | 神谷金衛 | 明治用水土地改良区 理事長 |
| 上野賞 | 生態系保全に配慮したほ場整備 秋田県駒場北地区における生態系保全対策手法の実践 | 秋田県農林水産部 秋田県仙北平野東部土地改良区 | |
| 上野賞 | ダム建設における建設発生土等の再資源化 資源循環を基調とした上場農業水利事業 藤ノ平ダムの設計・施工 | 九州農政局整備部 佐賀県農政部 | |

平成 17 年度「研究グループ」の助成金募集について(再)

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし, 下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度, 3 件以内です。

本年度の申請締切は, 平成 17 年 6 月 24 日(金) ですので, 助成金を希望される方は期限までに, 所定の様式(学会 HP 参照)で研究委員会委員長宛にお申込み下さい。

試験研究機関, 行政, 大学, 民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上, 「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお, 申請者の資格は, 後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定: 研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき, その可否を認定し, 学会長に報告する。

3. 配布: 研究委員会は認定した「研究グループ」に対し, 「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし, その配布は原則として 1 年とする。

4. 助成対象: 申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち, しかもその研究分野が現在立ち遅れており, それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし, 構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき, 構成員は原則として 3 名以上, それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は, 助成金申請締め切り日に 36 歳未満であること。

5. **活動報告**：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後1年以内に活動報告^{注1}を研究委員会に提出すること。

注1 研究経過報告書の執筆にあたり、農業土木学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり1~2ページに収ま

るようにまとめること。

2 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集では、平成10年4月1日以降受付の論文から、掲載適となった論文の最終原稿をA4版完全版下で提出いただくこととなっております。

しかしながら、規定の書式に則って作成されていない原稿がまだまだ多く寄せられております。これらにつきましては、これまで事務局から修正のお願いをし、印刷して参りましたが、昨今、印刷の質が悪いというご意見が多数事務局に寄せられるようになっております。

論文集編集委員会では、平成10年からすでに7年を経ており、現在はもう過渡期でないとの判断から、下記のように対応させていただきますこととなりました。

投稿者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、よろしく

お願いいたします。

記

1. 論文集の品質の向上を図るため、掲載適となった論文の**最終A4版完全版下原稿**が、投稿の手引き（学会ホームページに掲載）に則って作成されていない場合には、再提出をお願いすることといたしました。
2. 再提出されない場合には、掲載を見合わせることもありますので、ご注意ください。
3. 完全版下原稿を作成されることが困難で、かつ身近に版下作成業務を請け負う業者がない場合には、学会事務局が業者を紹介いたします。

農業土木学会論文集投稿料の改定について（再々）

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集編集委員会は、閲覧料を平成16年度から値下げしたことに伴い、投稿料について、平成16年度第1回委員会（16.4.16開催）および第2回委員会（16.7.20開催）で検討を行い、投稿料値下げを決定し、定期刊行物委員会の審議を経て、第189

回理事会の承認を得ました。平成17年4月1日受付の原稿から実施しています。

| | 改定後 | 現 行 |
|-----|----------|----------|
| 投稿料 | 16,000 円 | 20,380 円 |

投稿原稿の閲覧状況が確認できます！

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集に投稿中の原稿の閲覧状況がホームページで確認できるようになりました。

以下の手順で検索して下さい。

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）を開く。

「論文集」を選択。

「日本語」または「英語」を選択。

日本語の場合は「閲覧状況一覧」、英語の場合は「List of pa-

pers under reviewing」を選択。

投稿した年度を選択（受領ハガキに表示されている受付番号の上2桁が年度を表しています。例：「04101」の場合は、「2004年度」を選択）

PDFファイルの「閲覧状況一覧表」（受付番号、閲覧回数、閲覧依頼日、閲覧返送日）が表示されますので、自分の受付番号から閲覧状況を確認してください。

平成 17 年度農業土木学会大会講演会参加費対応について（注意事項）

平成 17 年度農業土木学会大会運営委員会

平成 17 年 8 月 23 日（火）～25 日（木）の 3 日間、岐阜市の岐阜大学キャンパスで開催されます平成 17 年度農業土木学会大会講演会の参加費につきまして、会社経費・公費等によるお支払いにも対応いたしますが、参加費は当日申込みと同様の扱い（一般 ¥7,000、学生 ¥5,000、印刷製本版講演要旨集ご希望の場合、一般

¥12,000、学生 ¥10,000）とさせていただきます。ご協力いただきますようお願いいたします。また、参加申込みの際には連絡事項欄に「社費・公費払い」等とご明記ください。
（お支払いいただいた参加費等の払戻しには、原則として応じかねます）

平成 17 年度農業土木学会大会講演会予約申込書

平成17年度農業土木学会大会講演会 参加申込書（ファックス用）

締切日：6月30日（木） FAX：052-583-5110 *このシートは学会HPからダウンロード出来ます

近畿日本ツーリスト(株)名古屋イベント・コンベンション支店気付農業土木学会受付係 宛
注意：印刷製本版講演要旨集のお申込みは、予約参加申込者のみの取り扱いになります。

| ふりがな | 区分(○で囲む) | | 大学・国・独立行政法人・地方自治体・民間・その他 | | | | | | | | |
|-----------------------|---------------|---|--------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------|------------------|----------|
| 申込代表者 | 連絡先名称 | | | | | | | | | | |
| 所属 | 連絡先住所 | | 〒 - | | | | | | | | |
| 電話 () | | | | | | | | | | | |
| Fax () | | | | | | | | | | | |
| E-mail | | | | | | | | | | | |
| No. | ふりがな 参加者氏名 | 印刷要旨集希望 | | | 印刷要旨集なし | | 交流会 | | 現地研修会 | 万博入場券 | 金額 小計 |
| | | 一般 ¥10,000 | 学生 ¥8,000 | 事前送付 ¥500 | 一般 ¥5,000 | 学生 ¥3,000 | 一般 ¥6,000 | 学生 ¥3,000 | | | |
| 例 | とうかい たろう | | | | | | | | | | |
| | 東海 太郎 | ○ | | ○ | | | | ○ | Aコース | ○ (Aコース申込者のみ) | ¥24,700 |
| お支払い方法 (いずれかにチェック) | | <input type="checkbox"/> お振込み <input type="checkbox"/> クレジット(会社名 <input type="checkbox"/> VISA <input type="checkbox"/> MASTER <input type="checkbox"/> AMEX <input type="checkbox"/> DINNERS <input type="checkbox"/> その他) カード番号()カード名義人()有効期限(年 月) | | | | | | | | 合計 | |
| 連絡事項 | | コピーを取り、控えとしてください。 | | | | | | | | | |

注意：支払締切日(8月15日)までに入金が行われていない場合は当日申込み扱いとなり、差額をいただくこととなりますのでご注意ください。
現地研修会のAコースをご希望の方のみ、学会の一部負担により万博入場券の割引特典が受けられます。万博入場券のみの申込みはできません。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年3月末にはVol.3, No.1(Spe-

cial issue;International Year of Rice)が発刊されました。
本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。
掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
- ② 排水（排水管理，排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発，水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流，情報交換の場として，皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと，会員には国際ジャーナルが，無料で配布されます。

なお，PAWEESの第2回 International Awardsの授賞式が，去る10月21日，韓国・安山市の韓国農業基盤公社ホールにおいて開催され，国際賞（6名），優秀論文賞（4名），うち沢田賞（1名），優

秀読者賞（3名）がそれぞれ授与されました。詳細については，本誌73巻3号pp 61～62をご覧ください。

出版社：Springer-Verlag社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003年3月創刊，以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員12,000円/年/4冊（送料等学会負担）

学生会員（院生含む）8,500円/年/4冊（送料等学会負担）

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは，学会HR <http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ，メールまたはFAXでお申込みいただけます。

農業土木学会は，300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが，現在会員数は277名（4月現在）と微増はしておりますが，いまだ目標会員数には達していません。そのため，編集業務を含め年間数百万円の赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき，多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では，2003年1月に日本，韓国，台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して，新たな国際学会（国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering）を設立し，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊，2005年3月末にはVol.3 No.1が発刊されました。

Vol.2 No.4（12月末発行）は，国際コメ年（International year of Rice）に連動した特集号となっております。

我が国においても学術誌の評価に，SCI（Science Citation Index）のIF（Impact Factor）が利用されており，本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また，世界13カ国からEditor（13名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は，Review，Article，Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，SCI獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが，**投稿料，掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等である。

編集体制：

- Editor in Chief：Dr. Yohei Sato（Japan）
- Editors および Editing Board には世界各国から**斯界の権威が**就任しています。
- Managing Editors：Dr. Yoshisuke NAKANO（Japan），Dr. Nobumasa HATCHO（Japan），Dr. Yoshito YUYAMA（Japan），Dr. Ke Sheng CHENG（Taiwan），Dr. Chun Gyeong YOON（Korea）

出版社：Springer Verlag社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：<http://www.jsidre.or.jp>に詳細を記載しています。

PWE 原稿投稿状況報告：2003年1月のPAWEES設立から2005年3月までに，Editorialを除いて109本の投稿がありました。その国別内訳は，下記ようになっており，多くの国で認知されつつあることを，ご報告いたします。

国別投稿内訳：日本73，韓国17，台湾3，イタリア2，インドネシア2，フィリピン1，パキスタン1，メキシコ1，マレーシア1，スリランカ1，ナイジェリア1，中国2，ブルガリア2，スペイン2

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

74巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004

東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会 学会誌編集委員あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail henshu@jsidre.or.jp

学会誌第74巻1号～第74巻8号までの小特集のテーマ(予定)

| 小 特 集 の テ ー マ | 要旨締切(必着) (A4判用紙,1,500字以内) | 原稿締切 (刷上り4ページ厳守) |
|--------------------------|------------------------------|---------------------|
| 74巻 1号 おらが町の地域再生・町づくり(仮) | " 6月24日 | " 8月15日 |
| 2号 | 公募なし | |
| 3号 地域資源管理と農業土木政策の展開(仮) | 平成17年8月25日 | 平成17年10月15日 |
| 4号 農村景観法(仮) | " 9月22日 | " 11月15日 |
| 5号 農業土木の国際化のあゆみ(仮) | " 10月25日 | " 12月15日 |

74巻1号テーマ：おらが町の地域再生・町づくり(仮)

我が国の人口は平成18年をピークに減少に転じると見られていますが、中山間地域では既に過疎化という形で直面して、さらに超高齢化、農業後継者不足など、複数の問題を抱えているところです。これに関連して、地方財政の合理化を主目的とした平成の大合併が進行中で、平成18年3月までに43.6%減の1822市町村へと減少する予定です。また、地方分権の議論も盛んで、国と都道府県との間で税源と権益を巡る攻防が続いていて、今や地方自治は激動の時代を迎えているといえます。

一方で持続可能な地域づくりのための施策も、平成12年に策定された第2次環境基本計画では、持続可能な社会の構築のため、身近な地域段階における取り組みが重要とされています。この持続可能な地域づくりには、地域が環境に配慮することと、主体的で継続的な地域づくりが求められています。もともと農村地域には自然資源、歴史資源、観光資源などの多くの可能性を秘めた地域資源が眠っています。それらの持続可能な地域資源を活用した地域づくりには、行政からのものであったりNPO主導であったり、いろいろな道筋はありますが、住民の理解と協力は不可欠で「住民参加型の地域再生」が一つの成功の鍵であるようです。

本特集では、住民主体で地域の環境、生活基盤、産業をどう守り、地域資源をどう活用していくか、またその取り組みについて、会員皆様からみた現状分析および課題、先進的事例、ご意見等、関連報文を募集いたします。多数のご投稿をお待ちしております。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」を設けております。

多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと思います。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1-2枚程度入れてください。

学会誌掲載待ち自主投稿原稿の掲載について 学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、受理された自主投稿原稿につきましては、できるだけ受理順に掲載するべく努力いたしておりますが、平成17年3月末時点で、掲載をお待ちいただいている原稿は21本あります。執筆者の方々には、大変ご迷惑をお掛けしていること、深くお詫びいたします。

しかしながら、昨今の財政事情から、学会誌1号分ページ数を縮減せざるを得ず、受理したにもかかわらず、直近の号に掲載することが出来ない状況となっております。

編集委員会では、このような状況を勘案し、当初企画を変更して、自主投稿原稿号を設けることといたしました。

掲載待ちの執筆者には大変ご迷惑をおかけしておりますが、もうしばらくお待ち下さいますようお願いいたします。

なお、ご投稿いただきました原稿の中には、論文集の研究報文に適したのものと思われる。論文集は受理後、直近の号に掲載することとなっておりますので、今後、論文集へのご投稿もご考慮いただきますよう、よろしくお願いいたします。

新コーナー：「私の勤める本」の原稿を募集しています！ 学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、「私の勤める本」のコーナーを新たに設けました。

会員諸兄姉が、ご自分で読まれて非常に参考になった、視野が広がった、技術者として是非ともいろんな方々に読んでいただきたい等々、「私が勤める本」をご紹介しますコーナーです。

また、自著をご紹介しますのも結構です。下記要領で、奮ってご投稿ください。

記

1. 原稿の長さ：1,200字（写真・体裁等含む）

刷り上がり1ページ以内（原稿には表紙の写真を含めて下さい。）

2. 原稿受付：随時（メールでの投稿も受け付けます）

3. 送付先：〒105 0004 東京都港区新橋5丁目34番4号

農業土木学会学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail suido@jsidre.or.jp

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか —平成18年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成18年も皆さまからの写真で表紙を飾ることといたしました。つきましては、下記の要領で学会誌第74巻（平成18年1～12月号）の表紙写真を募集しますので、ふるってご応募下さい。

本年もテーマを「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」として、公募いたします。下記の趣旨をご理解のうえ、多数の応募をお待ちしております。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受け付けております。組写真では、3～4枚の写真を組合わせて、ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. 趣 旨 これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人びとの生活を支えてきました。

特に人力に頼るしかない時代に施工されたものをはじめとす

る用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、わが国の気象条件や複雑な水利用を考えると、構造物の設計や施工に高度な工夫と多くの労力が必要であったことが容易に想像されます。

それら多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産ともいべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

例年の応募状況から、秋季および冬季の写真についても多数の応募をいただけますよう、お願いいたします。

2. 写真の種類 単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルの場合は高画質で、ほぼ400万画素以上を目安に）、サイズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。

3. 枚 数 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに

限りです。

4. **締切** 平成17年9月30日(必着)
5. **審査** 審査委員会(編集委員と写真家)で12点を選びます。
6. **結果発表** 学会誌74巻第1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成18年度大会会場でパネル展示します。
7. **賞品** 入選作品1点につき3万円(表紙掲載料含む)。応募者には記念品をお贈りします。
8. **応募資格** 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。
9. **その他** 応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ)を記入して下さい。また、対象物の名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ、だれが、どうして等)もお寄せ下さい。
原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。
10. **宛先** 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

第62回農業土木学会京都支部研究発表会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. **研究発表会** 日時 平成17年10月27日(木)
場所 石川県地場産業振興センター(予定)
(石川県金沢市鞍月2丁目1番地)
2. **情報交換会** 日時 平成17年10月27日(木)18:00~20:00
3. **現地研修会** 日時 平成17年10月28日(金)9:00~15:00
4. **研究発表申込**
発表希望者は、投稿原稿に先立ち、表題(仮題でも可)発表者名、所属、年齢(研究奨励賞対象者のみ)、連名者名、所属、年齢(研究奨励賞対象者のみ)、希望発表部門(材料、施工、水文・灌漑排水、環境、農村計画、土質・土壌物理、応用力学)発表者の連絡先電話番号、発表者のEメールアドレス(利用可能な場合)を記入した申込書(様式任意)を、EメールかFAXでお送りください。ただし、発表者は学会員に限らせていただきます。
なお、京都支部では、大学、短期大学、研究機関に所属する発表時35歳以下の会員(学生会員も含む)によって口頭発表された優秀な研究に対し、研究奨励賞を授賞しています。同賞の授賞基準に該当する方(35歳以下の連名者を含む)は、必ず申込書に年齢を記入してください。
投稿の詳細な要領は次号第2報に掲載いたします。
5. **発表申込先**
〒606 8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院農学研究科 地域環境科学専攻 小林 晃
☎075 753 6152 FAX 075 753 6346
E mail: kobadesu@kais.kyoto-u.ac.jp
6. **申込期限**
(1) 発表申込 平成17年6月末日
(2) 原稿締切 平成17年7月末日
(3) 参加申込 平成17年8月末日
参加申込については、会誌次号掲載予定の第2報を参照してください。
通年より発表会の開催日が1カ月ほど早いので、申込み、原稿締切が昨年より1カ月早くなっておりましてご注意ください。
7. **問合せ先**
石川県農林水産部農地企画課内
第62回農業土木学会京都支部研究発表会運営委員会事務局
担当 山下、石垣、河田
☎076 225 1632(直通) FAX 076 225 1634
E mail: s.kawada@pref.ishikawa.jp

国際水田・水環境工学会 2005年国際研究集会の開催について

テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

PAWEES 2005 International Conference

On Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- 主 催: PAWEES; International Society of Paddy and Water Environment Engineering (国際水田・水環境工学会)
- 共 催: 日本学術振興会、農業土木学会、韓国農工学会、農業工学研究所、IWMI、IRRI、CIGR、AAAE、国際農林水産研究センター、ICID、農業農村整備情報総合センター
1. **日 時**: 2005年9月7(水)~8日(木)
2. **場 所**: 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール
3. **テ-マ**: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理
4. **国際研究集会開催の意義と目的**
米は、世界の約半分の人口が主食としている穀物であり、波及する経済も考えた場合、地球で最も重要な作物のひとつといえま

す。特に米の主要な生産地であるアジアの食糧安定供給、貧困、さらに環境などの問題解決においては、水田農業の適切かつ持続的な維持管理の達成は重要な課題となっています。

2005年9月に京都において開催される国際研究集会〔持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理〕を主催する国際水田・水環境工学会（PAWEES）は2003年1月に設立されました。これは、第3回世界水フォーラムでも議論された水問題、なかでも非常に重要な役割を果たしている水田稲作農業を、流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直し、環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取り入れた新しい技術・学術体系として確立し、その国際化を図ることの重要性の認識に由来しています。学会は、設立以来世界各地の大学、研究機関、行政機関ならびに民間の研究者・技術者の協力を得て発展してきました。また、学会が発行している学術誌「水田・水環境（PWE）」は発行以来多くの支持を集めています。

この研究集会は、内外の研究者のみならず各国の状況に精通した技術者や国際機関の職員を含めた、当分野において主導的役割を担っている者が一堂に会する機会となります。そこで、最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに、水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し、将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに、過去の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し、食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることも視野にいれています。

さらに、研究集会において水田・水環境工学の研究分野を主導する立場の日本と海外の研究者・技術者との過去に築いてきた関係国・地域、関係研究機関等との連携強化が図られるとともに、その他の諸国の広汎な連携が推進されることも期待されています。

このように、水田・水環境に関連する研究・技術に携わっている方々にとっては非常に意義のある研究集会ですので、ふるってご参加願います。

本事業は独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の助成事業です。

5. 参加登録：

登録期間：平成17年1月1日～7月10日（7月10日以降の登録も定員に余裕がある場合のみ、研究集会当日に可能）
参加登録費：10,000円（4月20日以前に登録した場合のみ5,000円）
講演要旨集は研究集会当日にお渡しします。

6. 問合せ先

松野 裕（PAWEES 事務局長）
近畿大学農学部国際資源管理学科
〒631 8505 奈良市中町 3327 204
E-mail：matsuno@nara.kindai.ac.jp
吉武 幸子（農業土木学会編集出版部長）
（社）農業土木学会事務局
〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 農業土木会館 3階 1号
E-mail：paweess2005@jsidre.or.jp

防災に関する国際シンポジウム（ISMD 2006）の開催について

平成16年度「21世紀COEプログラム」で、高知工科大学は「社会マネジメント・システム学」の拠点として選定されました。そのプログラムの一環として、平成18年3月に本学にて「防災に関する国際シンポジウム（ISMD 2006）」を開催いたします。地震・豪雨等による災害に対して、より効率的に効果的に対応するため、防災をシステムとして捉えマネジメントする観点から、改めて防災対策のあり方、ハード・ソフトのインフラのあり方、災害原因の調査方法について問い直すことをテーマにしており、数多くの発表や参加が期待されています。奮ってご参加ください。

日 時：2006年3月9日～11日（3日間）

開 催 地：高知工科大学（高知県土佐山田町 高知空港から9km）

論文概要締切：2005年6月15日（英文300ワード前後）

登 録 料：登録料 無料

パーティ参加費 ¥8,000（希望者のみ）

論文集代 ¥2,000（希望者のみ）

会 議 事 務 局：〒782 - 8502

高知県香美郡土佐山田町宮ノ口 185

高知工科大学社会マネジメントシステム・センター

ISMD 2006 事務局（事務局長高木 方隆）

☎0887 57 2792 / FAX 0887 57 2811

E-mail:ismd@kochi-tech.ac.jp

Website:http://www.kochi-tech.ac.jp/coe21/ismd/

そ の 他：会議案内の入手、詳細については会議事務局までご連絡下さい。